
『まじない』

五十嵐 華音

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

『まじない』

【Nコード】

N9913E

【作者名】

五十嵐 華音

【あらすじ】

今まで本当の『恋』に出会う事の無かった主人公華音。そんな華音が初めて本気の『恋』をする…。冬夜との出会いによって…。華音の一途なラブストーリー！。華音の想いは冬夜に届くのか？！

プロローグ（前書き）

これは私の実話を元にしたラブストーリーです。これを読んで読者の皆さんが何かを感じて頂けたら光栄です。

プロローグ

煙草の最初の1本を逆さにする…。

その1本を最後まで吸わず、最後に願いを込めて吸うと願いが叶う…

昔、誰かから聞いた

『まじない』

そんな 子供だましの様なまじないでも…

すがりたいほど…

『君が好き』

プロローグ（後書き）

最後までお付き合いいただきありがとうございました。皆さんの感想お待ちします。

援交

「ハイツ3万円ね。」

「……。」

「またね？」

手に渡されたお金を財布にしまい込む…。

『援交』

人は辞めろだと言っけれど売れるものを売って何が悪いの？

高校を退学になり

仕事もない。

高校中退の奴にまわってくる仕事なんてたかがしれてる…

親父の相手をしてお金を貰って

何がいけないの？

セックスは愛がなきゃ嫌。

初めては好きな人。

愛がなくなつてセックスは出来る。

そんな奴私の他にもごまんといふでしょ？

そう…

あいつに出会うまでは…

確かにそう思つてたはずなのに…。

愛なんていらぬ。

金があればいい。

確かに…

そう思ってたはずなのに…。

「華音またやったのお？」

「…うん。」

「華音可愛いからいっぱいいくれるっしょ？笑」

世間ではこーいう奴を友達と呼ぶのか。

私にとっちゃただの援交友達。

見た目そこそこの一緒にいてハズくない奴なら誰でもいい…。

友達って何？

「ねえ華音？今日一緒に親父捕まえ行かね？」

「……いいよ。」

親父は金。

こつちだつて肝い親父相手にやらせてやってんだから当然ぢやない？

「ねえねえ？あいつ良さげぢやない？」

渋谷の路地裏。

近くにはラブホが数件並んでいる…。

ここは私のいわゆる援交スポット。

穴場である。

「君達いくら？」

一人の親父が声をかけて来た。

「おじさんお金持ちだから沢山出せるよ?」

親父はニタニタと笑いながら舐め回すように私達を下から上まで眺める。

そして、おもむろに財布の中身を見せてきた。

財布の中には数えきれないぐらいのお札が入っていた。

「…一人10万。」

私が言うとニンマリと笑みを浮かべホテルへと足を進めた…。

「10万とか超ラッキーぢゃあん!!」

私達も親父の後に続きホテルへと足を進める…。ホテルに入ると親父が近づいてきた…。

「…汚いからシャワー浴びてきてくんない?」

親父は一瞬顔を曇らせ浴室へと足を進めた…。

「華音？親父機嫌そこねね？」

関係ない。

いくらお金くれるつつたつて肝いもんは肝い。

親父が金下げる様なら他の探せばいい話だ。

お金をくれる親父なんてそいっただけじゃない。

しばらくすると親父が浴室から出てきた。

シャワーを浴びてる隙に金パクって逃げるとか

筒抜けとか

んなの簡単だけどめんどくせえ。

親父とやりゃいいだけじゃん。

んなの簡単でしょ？

「Fしてくれる？」

親父が自分のモノに私の顔を近づける…

「……………」

私は親父のモノを口に加え舐め始めた…。

「うッあッ…華音ちゃん上手だねえ？」

「……………」

私は何も言わずモノをしゃぶり続けた…。

「君はこっちに来て跨ってくれる?」

「柚璃亜ちゃんのおま〇こ美味しいね。」

親父の顔に跨るようにして柚璃亜がク〇二をさせる…。

「あッあぁ…気持ちいいよ。」

親父の反応なんかどーでもいい。

早く挿れて金くれよ。

「はぁッ…はぁッ…」

親父が体制を変える。

「生？ ゴム有り？」

「生がいいなあ。 中だしでいいよね？」

親父は私におおいかぶさるようになして挿れ始めた…

「あッあぁッ…イっちゃっよ…」

親父はイき果てもちろん中だし。

私達はシャワーを浴び着替える。

「…金。」

私は親父の前に手を突き出し金を催促した。

親父は財布から金を取り出し私に渡した…。

「1、2、3…」

金を数える。

少なかったら嫌だしね？

「
…39、40ッ。」

「
…多いよ。」

「君達可愛いからサービスだよ。」

「
……………」

「またね？」

親父は最後にそー言つとベッドに横になった。

私達は金を分けホテルを後にする…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9913e/>

『まじない』

2011年1月15日20時35分発行